

SHIRAUMEKAISHIRAUMEKAISHIRAUMEKAISHIRAUMEKAI

所長だより

SHIRAUMEKAISHIRAUMEKAISHIRAUMEKAISHIRAUMEKAI



謙虚になれば、もっと素直に生きられる

末学の凡夫、あながちに胸臆に任せて 難思の境界を判撰すべからず。

ひみつまん だらじゆうじゆうしんろん
「秘密曼荼羅十住心論」

知ったつもりをやめて世界を広く深く見る

原文は難解ですが、「深く学んでもいないのに、知ったつもりになって、悟りの世界をどうこう言うことなど許させるものではない」ということ。

ぼんぶ 凡夫とは煩惱に支配されて生きている人間のことで、世俗にいる人、つまり私たちのこと。私たちは無知の闇に沈んでいる凡夫なのです。

それさえ自覚せずに、世界の真理を知ったような気になっては、仏に近づくことなどできないということです。

いくら頭をフル回転させているつもりでも、人の脳は全機能の数%しか使われていないそうです。同様に、世の中のことを知ったつもりになっても、世界ははるかに広く奥深いものです。たとえば自分はみんなより美人でモテるとか、一流企業で高い給料をもらっているとか、そんな見栄やおご驕りは、無知な凡夫の小さな世界でしか通用しません。広大なこの世界ではどうでもいいことだからです。

世界をもっと広く深く見て、自分はまだ何も知らない凡夫だと謙虚に受けとめましょう。そうすればきっと、いまより素直にのびのび生きていけます。



自分の利益やご都合ばかり優先しない

凡夫は善悪に盲いて、因果あることを信ぜず。

ただし眼前の利のみを見る、何ぞ地獄の火を知らん。

ひそうほうやく
「秘蔵宝鑰」

現代人にだって地獄が待っている

「世の凡人は善悪の判断がつかず、そこに因果応報の理ことわりがあることを知らない。ただ目の前の利益を見ているだけの者に、どうして地獄の恐ろしさがわかるうか。」

原文では、さらに手厳しい言葉が続きます。「恥じることもなくさまざまな悪いことをして、そのくせ自我がどうのと主張する。迷いの世界にとらわれて、それで満足している。それでどうして煩惱の世界から逃れられようか」。

デジタルやらネット全盛の文明社会にも、地獄はきっとあります。善か悪かという人間としての基本の判断ができなくなってしまったら、地獄はあちこちに顔をのぞかせるでしょう。日常でも「眼前の利」しか目に入らない人をよく見かけます。

たとえば、混んだ電車で平気で化粧をしている女性、足の不自由な人が目の前に立っているのに、ゲームに夢中で席をゆずろうとしない若者、横断歩道をゆっくりしか歩けないお年寄りにクラクションを鳴らすドライバー……。自分のご都合ばかり優先している人たちです。これはもう善悪の判断以前の話。自分の利益や都合ばかり考えず、当たり前前の気づかいを忘れないようにしましょう。

ありのままの自分をさらけだそう

覆えばすなわち長劫に偽獄に沈み、発陳すれば仏の真容を見る。

こんしやうおうきやうひみつかだ
「金勝王 経秘密伽陀」

隠すものが多くなるほど自分を苦しめる

「あやまちを隠せば隠すほど長く地獄に苦しむことになり、

心をさらけ出せば、仏の姿に出会うことができる」—

つまり隠すものが多くなるほど自分を苦しめるが、嘘を言わず、自分をありのままにさらけ出せば、心安らかに過ごせるということです。

人は知能が発達したばかりに、嘘をついたり、人をだますことを覚えてしまった動物です。新聞を見れば「振り込め詐欺」や「結婚詐欺」など、まるで地獄に墜ちる恐ろしさを忘れてしまったかのような愚かな人々がいっぱいいます。

詐欺まで働かなくとも、自分を見栄で飾りたてたり、本当の姿を隠していることはやはり苦しみを生むはずです。経歴をいつわって生きたり、妻子がいるのを隠して浮気に励んだりしている人は、そんな嘘をやめてしまえば、よほど楽に生きていけるはずです。

空海は「真言は苦を抜き、楽を与う」と言っています。よけいな智慧を捨てて、まことのことにしたがえば、人はもっと楽しく暮らせるのです。

(参照 宮下真著；生き方が変わる 空海 黄金の言葉)